

町政覚え書き

第33回 地域ブランドを考える【第2回(終)】
産業振興に必要な視点
～『地域に対する信頼』獲得に向けた地道な努力～

大河原町長 伊勢 敏

地域ブランドの創造は、地域経済の振興策となる、政策面でのイノベーションである。イノベーションとは、新たな価値をもたらす技術革新・アイデア・システムなどの導入による改革である。また、理論経済学では、「経済成長の要因の大半(7〜8割)はイノベーションである」という考えが定説(証明済みの確定的であるとする説)となっている。この定説に従えば、地域ブランドの創造によって地域経済を成長させるためには、新たな技術革新・アイデア・システムの導入が重要な鍵を握っている、といえよう。一方、ブランドとは、『信頼のストック(資産)』である。従って、地域ブランドは地域に対する信頼のストックである。地域に対する良好なイメージ、地域の特徴・歴史・文化に基づく地域産品のビジョンの醸成がなまに地域ブランドは創造できない。ブランドは、特定のビジョンに基づき、消費者及び市場に対する一貫性のあるコミュニケーションを長期に継続す

ることによって形成される。イノベーションなくして地域ブランドの創造は困難であり、また、地域に対する良好なイメージを伴わない地域ブランドの実現はありえない。地域の良好なイメージをどのように創造するのか、どのようなビジョンのもとに地域ブランドを創造するのか、が重要になってくる。つまり、地域ブランドの創造は、一朝一夕に実現できる生易しいものではなく、地道な努力が求められている。以上の考えを前提に、私が考えるブランド政策を述べる。本町にはいくつの特産品があるが、全品目を大量に産地形成できるほどの面積がない。生産者の品質向上による利益の増大が重要である。品質向上への努力を支える一つが、本町に対する良好なイメージの創造である。本町を『○○○○の町(地域)』とひとことで、表現できるとともに、町民(地域住民)が等しく共有できるイメージとして、たとえば、『環境先進都市』はどうだろうか。環境に優しい同じ栽培法によって

生産された産物でも、『あの環境先進都市の』というイメージによって、知名度が勝ろう。先月号で記した仙南地域の森林資源を原料に再生可能エネルギー(環境に優しいクリーンエネルギー)を製造する企業立地の推進も、環境先進都市の実現に向けた取り組みであり、地域ブランド創造に貢献する事業といえる。環境農業、クリーンエネルギーなど、環境先進都市の実現には時間がかかる。しかし、急がば回れ、本町及び仙南地域のイメージを、他の地域や市場における信頼のストックを積み重ねることは、地域ブランドの創造の近道である。先月号で広域的な取り組みの重要性を指摘、今年13日の仙南地域政策調整会議(県及び2市7町で構成)で、仙南に相応しいブランド構築に向けた検討機関の設立を提唱した。これらの地道な政策の展開により、6次産業化による物産振興、観光振興、企業誘致(こくに、環境先進技術を有する企業誘致)において、有利な地位を獲得することができると信じている。【11月23日】

100年後まで、大切な樹を 大小生が参加「それゆけ! さくら探検隊!!」



ちぎり絵の桜の樹に、花びらのメッセージカードを貼って満開の桜に。



▲「大野なをさん(左)からアドバイスをもらってカードが書きやすかった」と話す佐藤日和さん(右)

11月7日、「残そう100年後に!大河原の誇り一目千本桜」をテーマに、体験プログラムで学ぶ「それゆけ! さくら探検隊!!」(主催:地域指定福祉教育推進事業運営委員会、大河原町社会福祉協議会)事業が世代交流いきいきプラザで開催され、大小生3〜6年生36人が参加しました。

当日は、一目千本桜の成り立ちを映像(作成:大河原町さくらの会)で学んだほか、お花見客へ向けたメッセージカードをお年寄りの皆さんとふれあいながら作りました。参加したお年寄りのかたは、カードに書く言葉が思い浮かばない子どもに「ようこそ、とか桜いっぱいとかなんでもいいんだよ」と話しかけながら楽しく作業をしていました。

また、強風で折れて不要になった桜の枝を使ったキーホルダー作り体験では、ストラップの部分になる紐の巻き方にどの子も苦戦しながらも、完成したキーホルダーを手にとると「やっとできた」と感慨深く見ていました。



▶キーホルダーの紐を巻く難しい作業は周りと相談しながら行いました。



▶キーホルダー完成!

古代竪穴式住居とのお別れ

金小祭で竪穴式住居とのお別れ式

10月24日、金ヶ瀬小学校で開催された金小祭で、グラウンドに設置されている竪穴式住居とのお別れ式がありました。

この竪穴式住居は金ヶ瀬小学校120周年記念事業として平成5年に作られ、以前は「竪穴祭り」という行事の中で、当時の6年生が宿泊体験を行い、古代の生活を学んでいました。

しかし、東日本大震災による損傷が激しく、修理・維持管理の困難さから、惜しまれながらも今年中の取り壊しが決まりました。



▲当日は竪穴式住居への立ち入りが許可され、昔を思い出しながら記念撮影をする見学者の姿が見られました。



「まちの本棚」

駅前図書館今月の新刊

一般/■ほろよい薬膳 鳥海 明子/著 【誠文堂新光社】
春、梅雨、夏、秋、冬の5つの季節ごとに起こりやすい症状を改善するレシピを紹介。各季節とも、前菜、副菜、主菜、デザートは種類や種類によりおつまみを掲載。野菜などをすりつぶし、だしと合わせた「すりながし」も収録。
小説/■ダイオウイカはかく語りき 城崎 零/著 【風詠社】
最長で18メートルにもなると言われるダイオウイカ。調査艇が襲われた! 深海での戦い。無事に生還できるのか!? 人間とダイオウイカ、それぞれの視点から描く、新感覚・海洋小説。
児童/■18きつぷ 朝日新聞社/著 朝井 リョウ/著
人生の岐路に立ち選択を迫られた18歳たち。愛知、岐阜、三重に住む18歳に取材し、その素顔をポートレート写真とともに紹介する。『朝日新聞』名古屋本社版連載を再編集し、朝井リョウのエッセイを加える。
児童/■おなやみ相談部 みつら かれん/著 十々夜/絵 【講談社】
「環境部」という不思議な部活に入ることになった八枝。部員は1人なので中1なのに部長。次々やってくる、おかしな悩みを解決できるのか? そして部員は増えるのか?
絵本/■オオのサラリーマン 富安陽子/文 大島妙子/絵 【福音館書店】
おとちゃんの名まえは、オオワラケン。じごくのサラリーマンだけども、じごくはとてもない。まんいんバスにのって、じごくへついたら、まずじゅんばんに、えんまだいおうさまに、あいさう。オオワラケン、きみきょう、うのいけじごくのかんし、たのむわといわれ、ちのいけじごくのみはりについたらけい...